

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201769		
法人名	株式会社富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら 1階ユニット		
所在地	静岡県静岡市清水区梅ヶ谷645-13		
自己評価作成日	令和5年11月16日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&jirvosyoCd=2274201769-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街からは少し離れた郊外になりますが、山や川に囲まれ自然にあふれた静かな場所にあります。車の通りも少ないので、ゆっくり自然を感じながら散歩が楽しめます。また、季節に応じた行事やレクリエーションを行ったり、楽しみを持って生活できるよう援助しています。食事毎毎栄養士が考えた献立を元に職員が手作りで作っていますので、出来立てのものをご利用者様の食事形態に合わせ調理しています。医療面では系列の病院と24時間体制で連携をとり、怪我や病気に即座に対応できるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階ユニットがリフォームのため休止していましたが、令和5年4月にオープンし、9名の新たな利用者と5名の新任職員で再スタートを切っています。「毎日明るく楽しくゆとりを持って穏やかに」の理念から「家であったことや負の感情は持ち込まない。気持ちを切り替えて」と意識をもって臨む職員の姿勢に、慣れない場所で居室から出て来なかった利用者も、明るい話し声が響く雰囲気と職員の声かけに誘われてリビングへ集うようになり、和気あいあいとした共同生活が形成されています。衣替えや日用品の補充、散歩に至るまで利用者担当職員が関わる時間をもち、細やかな配慮で信頼関係が深まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を玄関、台所、事務所に掲げ、いつでも確認できるようにしています。また、毎月行うスタッフ会議で最初に管理者が読み上げ、全員で理念を再確認しています。	「毎日を明るく楽しく～」の理念が示すように「家であったことや負の感情は持ち込まない」と意識をもって臨んでいます。居室から出て来なかった入居間もない利用者も、明るい話し声が聞こえる雰囲気と職員の声かけからリビングで過ごせるようになったことに理念の浸透を感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民の方に会ったら必ず挨拶を交わしています。また、運営推進会議には自治会長や民生委員の方が定期的に参加して下さっています。	5類移行後は地域行事も復活の兆しが見え、コロナ禍以前のように夏祭り開催のお誘いもありましたが、人混みへの外出は感染者数の状況により慎重に判断しています。地域情報は、毎回運営推進会議へ出席くださる自治会長及び民生委員より得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	良天候の日には、ほぼ玄関を開放しています。いつでも認知症についての相談など、情報の共有又は提供できる環境を目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故の報告、イベントなどの報告、身体拘束についてのお話しをしています、会議で意見を参考としながら、サービスの向上を目指しています。	5月より通常開催し自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席しています。洗濯物を取り込むためシルバーカーを使わず歩こうとしたヒヤリハットでは「夕刻まで干してあると気になる。早く取り込むか見えない所に」と貴重な意見ももらえています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和5年10月から介護相談員の訪問を再開しています。月に1回訪問して下さい、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。	介護相談員はユニット利用者一人ひとりに話しかけ、レクリエーションでは一緒に歌を歌うなど活動にも参加しながら利用者の様子を把握し、管理者への報告がもらえています。行政から配信されるメールは毎日チェックし、重要事項はプリントアウトして職員に伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の宣言を掲げ、身体拘束をしないケアをおこなっています。また、年1回身体拘束廃止フォーラムに参加しています。また、3ヶ月1回スタッフ会議の前に身体拘束適正化検討委員会を開催しています。職員研修も年2回行っています。	基準に定められた委員会、研修を滞りなく実施できています。身体拘束適正化委員会では「身体拘束適正化のための指針」を読み上げ、未実施減算に係る取組みと拘束のないケアへの理解を深めるとともに、身体拘束につながりそうな事例がないか確認しています。	身体拘束適正化委員会における内容の職員への周知や個別検討事例など、議事録について見直しが図られることを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、毎月の会議で虐待が無いかなど話し合い意識の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談時に制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得して契約を締結できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入し投函できる意見箱を設置しています。また、家族が来所されたら必ず声を掛け話を聞いています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えています。	意見箱への投書はありませんが、面会や電話での対話から意見を聞き出しています。「散歩に連れ出してほしい」「家事や趣味を継続してやれるようにしてほしい」といった要望は介護計画に落とし込んで実践しています。日常の様子は毎月のお手紙に写真を添えて知らせています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や年2回個別の面談を行い、意見や提案、要望などを反映できるように努めています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えています。日頃から職員とのコミュニケーションも大事にしています。	スタッフ会議では、管理者が前もって話合いたいことはないか職員に聞き取り、提示された意見をもとに協議しています。2階ユニットオープンにともない、9名の新たな利用者と5名の新任職員で再スタートを切っており、利用者に合わせた一日の流れとなるよう検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入してします。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修の提供や希望がある時には勤務表の考慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週に一度、姉妹グループホームの管理者で会議を行い、意見、情報を交換、共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がアセスメントの重要性を理解し、出来るだけ早く本人に安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは定期的に連絡をとっており、来所の際には不安や要望の話しを聞き、解消できるように努めています。また、毎月、本人の近況報告などを手紙にて伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントをとりながら、本人や家族の希望を伺い、グループホームで出来る事と出来ない事を説明し、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事、レクリエーション等の造作物を作成することで、共同生活をしているという意識を持ってもらうよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族も一緒に参加していただけるよう通知を出す等して、気軽に来所していただける雰囲気をつくっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族に毎年賀状を出したり、定期的にお手紙を出したりしています。面会はコロナウイルス感染防止の為、玄関先で面会出来る環境を作っています。	面会は玄関先としていますが時間及び人数に制限はありません。毎週訪れる家族や、「ひ孫にやっと会えた」と大喜びする姿に面会の重みを実感しています。趣味の将棋が継続できることを知った家族が将棋盤を持参してくれたり、好みの梅干しを届けてもらう人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズになるようにリビングの座席の配置を考慮したり、孤立することが無いように職員が間に入り関係を保つように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が停止した後も、必要に応じて可能な限りフォローするようにしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けており、各利用者様に担当職員が決まっています。その為、毎月のスタッフ会議にて、各担当者がそれぞれの利用者様の思いや希望、状態などについて発言をし、検討が必要な場合は全員で話し合いをしています。	衣替えや日用品の補充、散歩に至るまで、できるだけ利用者担当職員が関わる時間を持っており、利用者からの「～がなくなったから〇〇さんにお願ひしておいてね」という言葉がその信頼関係を裏付け、モニタリング表の記述からこまやかな観察力を垣間見ることができます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人からこれまでの生活観や環境を聞く、または以前サービスを受けていた場所からの情報提供を通じて、なじみの暮らし方の把握をできるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で話し合って情報を共有し、日々の暮らし方や心身状態の把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをとり、計画作成担当が本人や家族の意見をまとめて介護計画を作成しています。ニーズの変更やADLが明確に変化があった場合なども、必要に応じてその都度見直しています。	定められたフォーマットに従って利用者担当職員が実施状況及び本人・家族の満足度をモニタリング表に記載しており、介護計画の実践の証となっています。スタッフ会議でサービス担当者会議の時間を設け、職員間の意見をもとに計画作成と介護支援専門員が書面化しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護サービス実施記録を作成し、長期、短期目標を達成する為に、スタッフが内容を確認しサービスができた日には印を押し、月末にサービスが適切に提供されているか明確にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な限り対応していきたいと思っておりますが、現段階では多機能化への取り組みは行っていません。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域の特徴を調査、把握して活用していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は系列の病院へ希望する家族が多く、職員が付き添い、介助を行っています。以前からのかかりつけ医希望の場合、家族が付き添い、その後家族から情報を聞き、共有が出来るようにしています。家族が対応できない場合は職員が	在宅からのかかりつけ医を継続する人は1名で、他は系列病院へ変更しています。受診結果は介護記録に記載し、特別な変更点はその日のうちに家族に電話で報告しています。訪問看護師による健康管理と24時間体制で対応してくれる安心な医療体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の健康管理の他に、系列病院と24時間体制で連携をとりながら利用者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や相談員と相互に連絡を取り合っており、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、事業所で出来る事と出来ない事を説明し、同意をいただいています。	食事が食べられなくなった時には栄養補助食品で補うことはできても、飲み込みが出来なくなり、痰吸引や経管栄養といった医療的ケアが必要になった場合には、事業所での生活を続けることが難しいことを伝え、移設先については誠意をもった相談対応がなされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修で実践力を身につけられるよう努めています。また、急変時の対応マニュアルを用意いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームではあらゆる事象を想定した防災訓練を、年2回(3月11日)行っています。また、夜間にも対応できるように緊急連絡網を作成し、災害時に活かせるようにしています。	年間計画に法定訓練を位置づけ、夜間想定も実施しています。防災担当職員を任命するとともに、年間研修計画に災害対策を盛り込んで学び、水害・土砂災害については地域住民からの情報や過去の台風被害を訓練に活かし、確実な備えにつなげたいと取り組んでいます。	次の3点を期待いたします ①入職時における避難経路及び消火設備についての説明 ②訓練メニューを列挙し、未経験の職員の洗い出し ③BCPの策定及び周知、運用と見直し

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけが大切だという事は職員も理解しています。気になる対応があった場合にはその都度指導しています。	年間研修計画に「接遇」を取入れ、介護現場で求められる思いやりのある声かけやプライバシー、羞恥心への配慮といった接遇マナーを習得しています。契約時には個人情報使用同意書とともに、施設内掲示物等における写真の使用についても同意書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを大切にしています。個々の希望を表現しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	便宜上、ホームでの1日の流れを作成していますが、それに捕らわれることなく、利用者のペースで過ごせるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容をはじめ、2ヶ月に1回、任意での散髪を行っています。また、本人の希望にあわせた服装をしてもらえるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面に考慮しながら、食事前のテーブル拭きやランチョンマット並べを職員と一緒にに行っています。献立を変更して寿司やカップラーメンを食べたり、ホットケーキ、どら焼きを一緒に作るイベントを行いました。	系列病院の栄養士が作成した献立にもとづいて、複数業者より食材を取り寄せて職員が調理しています。野菜作りに精を出す利用者もいて、家庭菜園で収穫した旬の野菜が食卓に上ることもあります。カップラーメンは数種類購入してあれこれ選ぶ楽しみも作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは栄養士により管理されています。水分量も不足しないように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや介助にて口腔ケアを行っています。義歯使用者は許可を得て眠前に預かり、洗浄しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員で共有し、出来るだけトイレで排泄を行っていただくよう支援、援助しています。夜間は睡眠を優先しオムツを使用している方もいます。	皮膚トラブルを回避したい気持ちから、トイレ誘導の声かけにも気持ちよく応じてもらえ失敗も減っています。水分量や食事摂取とともに運動を取入れて便秘予防に取組み、車いすの人でも身体を動かせるよう、エルゴメーターによるペダル漕ぎを活用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や適度な運動など、個々に応じた予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴担当者を配置し、基本的には週2回ですが、希望があればいつでも入浴できるようにしています。また、好みにより入浴剤も使用しております。	午後を入浴時間に充て、自ら準備をして待つ人もいます。入居したばかりの利用者は環境に慣れず遠慮がちなため、気持ちを押し量りながら誘っています。ゆず、ラベンダー、森林の香りなど入浴剤は常に複数用意し、湯船に浸かるとご機嫌で大好きな童謡が飛び出す人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬の説明者をよく読み、理解した上で服用の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、日光浴、散歩、読書、工作など、利用者がゆっくと過ごせる環境を提供できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は担当職員が中心になり個別及びグループ別に外出援助をしていました。現在コロナ禍で外出は出来ない為、施設周辺を散歩するようにしたり、受診の際に帰りにドライブをしながら帰ったりしています。	下肢筋力の低下防止も大事な目的ですが、気分転換のためにも天気の良い日には毎日午前中散歩へ出かけています。歩行能力によってコースはさまざまですが、サワガニのいる川浴いをはじめ、柿の木やみかん畑、春には桜の木を眺めながら、豊かな自然を満喫しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族が行っていますが、本人と家族の希望により、少量のお金を所持し、職員と共に買い物に出かけた際、自身で購入することが出来るよう勤めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙のやり取りが出来るように支援しています。電話も必要があれば取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度に配慮し、エアコン、加湿器を利用し過ごしやすい環境を提供しながらも、適宜空気を入れ替えるなど、工夫して生活環境を整えています。また、季節の物の工作物や、お花を飾ったりしています。	「持ち込まない」ことを鉄則とし、短い時間でもこまめな換気と手洗い消毒、担当を決めた清掃で新型コロナウイルスの罹患もなく過ごしています。彼岸花が咲く時期には切り花として飾ったり、リビングに居ながらも季節の移ろいが感じられるよう、壁面を協同制作しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際にソファを設置し読書やTV鑑賞など、くつろぎながら生活できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に頼んで、馴染みのある物を持ち込んでいただき、なるべく自分の家にいるかのような空間作りを目指しています。お部屋に位牌を置いている方やアルバム、家族との写真を飾っているお部屋もあります。	備付けの家具により十分な収納スペースが確保されており、座り慣れた椅子や家族の写真、絵画作品や手芸品など愛着ある物が持ち込まれています。机の角にはコーナーガードを取り付けて、転倒による怪我から守れるように、安全面への配慮もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、リビングやトイレなどには手摺りを設置し、出来るだけ自立した生活を送れるような環境にあると思います。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201769		
法人名	株式会社富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら 2階ユニット		
所在地	静岡県静岡市清水区梅ヶ谷645-13		
自己評価作成日	令和5年11月16日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&jirvosyoCd=2274201769-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街からは少し離れた郊外になりますが、山や川に囲まれ自然にあふれた静かな場所にあります。車の通りも少ないので、ゆっくり自然を感じながら散歩が楽しめます。また、季節に応じた行事やレクリエーションを行ったり、楽しみを持って生活できるよう援助しています。食事毎毎栄養士が考えた献立を元に職員が手作りで作っていますので、出来立てのものをご利用者様の食事形態に合わせ調理しています。医療面では系列の病院と24時間体制で連携をとり、怪我や病気に即座に対応できるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階ユニットがリフォームのため休止していましたが、令和5年4月にオープンし、9名の新たな利用者との5名の新任職員で再スタートを切っています。「毎日明るく楽しくゆとりを持って穏やかに」の理念から「家であったことや負の感情は持ち込まない。気持ちを切り替えて」と意識をもって臨む職員の姿勢に、慣れない場所で居室から出て来なかった利用者も、明るい話し声が響く雰囲気と職員の声かけに誘われてリビングへ集うようになり、和気あいあいとした共同生活が形成されています。衣替えや日用品の補充、散歩に至るまで利用者担当職員が関わる時間をもち、細やかな配慮で信頼関係が深まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を玄関、台所、事務所に掲げ、いつでも確認できるようにしています。また、毎月行うスタッフ会議で最初に管理者が読み上げ、全員で理念を再確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民の方に会ったら必ず挨拶を交わしています。また、運営推進会議には自治会長や民生委員の方が定期的に参加して下さっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	良天候の日には、ほぼ玄関を開放しています。いつでも認知症についての相談など、情報の共有又は提供できる環境を目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故の報告、イベントなどの報告、身体拘束についてのお話しをしています、会議で得た意見や評価を参考にしながら、サービスの向上を目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	令和5年10月から介護相談員の訪問を再開しています。月に1回訪問して下さい、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の宣言を掲げ、身体拘束をしないケアをおこなっています。また、年1回身体拘束廃止フォーラムに参加しています。また、3ヶ月1回スタッフ会議の前に身体拘束適正化検討委員会を開催しています。職員研修も年2回行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、毎月の会議で虐待が無いかなど話し合い意識の向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談時に制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得して契約を締結できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由に意見を記入し投函できる意見箱を設置しています。また、家族が来所されたら必ず声を掛け話しを聞いています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や年2回個別の面談を行い、意見や提案、要望などを反映できるように努めています。そこで意見が出た場合は会議で代表者へ伝えています。日頃から職員とのコミュニケーションも大事にしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修の提供や希望がある時には勤務表の考慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週に一度、姉妹グループホームの管理者で会議を行い、意見、情報を交換、共有しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がアセスメントの重要性を理解し、出来るだけ早く本人に安心していただけるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは定期的に連絡をとっており、来所の際には不安や要望の話しを聞き、解消できるように努めています。また、毎月、本人の近況報告などを手紙にて伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントをとりながら、本人や家族の希望を伺い、グループホームで出来る事と出来ない事を説明し、サービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事、レクリエーション等の造作物を作成することで、共同生活をしているという意識を持ってもらうよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族も一緒に参加していただけるよう通知を出す等して、気軽に来所していただける雰囲気をつくっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族に毎年年賀状を出したり、定期的にお手紙を出したりしています。面会はコロナウイルス感染防止の為、玄関先で面会出来る環境を作っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズになるようにリビングの座席の配置を考慮したり、孤立することが無いように職員が間に入り関係を保つように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が停止した後も、必要に応じて可能な限りフォローするようにしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を設けており、各利用者様に担当職員が決まっています。その為、毎月のスタッフ会議にて、各担当者がそれぞれの利用者様の思いや希望、状態などについて発言をし、検討が必要な場合は全員で話し合いをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人からこれまでの生活観や環境を聞く、または以前サービスを受けていた場所からの情報提供を通じて、なじみの暮らし方の把握をできるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で話し合って情報を共有し、日々の暮らし方や心身状態の把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをとり、計画作成担当が本人や家族の意見をまとめて介護計画を作成しています。ニーズの変更やADLが明確に変化があった場合なども、必要に応じてその都度見直しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護サービス実施記録を作成し、長期、短期目標を達成する為に、スタッフが内容を確認しサービスができた日には印を押し、月末にサービスが適切に提供されているか明確にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な限り対応していきたいと思っておりますが、現段階では多機能化への取り組みは行っていません。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域の特徴を調査、把握して活用していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は系列の病院へ希望する家族が多く、職員が付き添い、介助を行っています。以前からのかかりつけ医希望の場合、家族が付き添い、その後家族から情報を聞き、共有が出来るようにしています。家族が対応できない場合は職員が		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による週1回の健康管理の他に、系列病院と24時間体制で連携をとりながら利用者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や相談員と相互に連絡を取り合っており、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、事業所で出来る事と出来ない事を説明し、同意をいただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修で実践力を身につけられるよう努めています。また、急変時の対応マニュアルを用意しいつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームではあらゆる事象を想定した防災訓練を、年2回(3月11日)行っています。また、夜間にも対応できるように緊急連絡網を作成し、災害時に活かせるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけが大切だという事は職員も理解しています。気になる対応があった場合にはその都度指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを大切にしています。個々の希望を表現しやすい環境づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	便宜上、ホームでの1日の流れを作成していますが、それに捕らわれることなく、利用者のペースで過ごせるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容をはじめ、2ヶ月に1回、任意での散髪を行っています。また、本人の希望にあわせた服装をしてもらえるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面に考慮しながら、食事前のテーブル拭きやランチョンマット並べを職員と一緒にを行っています。献立を変更して寿司やカップラーメンを食べたり、ホットケーキ、どら焼きを一緒に作るイベントを行いました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは栄養士により管理されています。水分量も不足しないように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや介助にて口腔ケアを行っています。義歯使用者は許可を得て眠前に預かり、洗浄しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員で共有し、出来るだけトイレで排泄を行っていただくよう支援、援助しています。夜間は睡眠を優先しオムツを使用している方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や適度な運動など、個々に応じた予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴担当者を配置し、基本的には週2回ですが、希望があればいつでも入浴できるようにしています。また、好みにより入浴剤も使用しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息をとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬の説明者をよく読み、理解した上で服用の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行ったり、日光浴、散歩、読書、工作など、利用者がゆっくりと過ごせる環境を提供できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は担当職員が中心になり個別及びグループ別に外出援助をしていました。現在コロナ禍で外出は出来ない為、施設周辺を散歩するようにしたり、受診の際に帰りにドライブをしながら帰ったりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は家族が行っていますが、本人と家族の希望により、少量のお金を所持し、職員と共に買い物に出かけた際、自身で購入することが出来るよう勤めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙のやり取りが出来るように支援しています。電話も必要があれば取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度、湿度に配慮し、エアコン、加湿器を利用し過ごしやすい環境を提供しながらも、適宜空気を入れ替えるなど、工夫して生活環境を整えています。また、季節の物の工作物や、お花を飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング窓際にソファを設置し読書やTV鑑賞など、くつろぎながら生活できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に頼んで、馴染みのある物を持ち込んでいただき、なるべく自分の家にいるかのような空間作りを目指しています。お部屋に位牌を置いている方やアルバム、家族との写真を飾っているお部屋もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、リビングやトイレなどには手摺りを設置し、出来るだけ自立した生活を送れるような環境にあると思います。		